農委広報

もっしぇの～

2025
1
No.61

農業委員会広報「もっしぇの～」目次

P２　農業委員会会長　年頭のごあいさつ
　　農業者の紹介（表紙）
P３　農業委員会総会・全員協議会を開催
　　皆川市長へ建議・要望書を提出
P４　北海道・東北ブロック女性農業委員研修会
　　県大会・石塚会長農業会議会長表彰
P５　ＳＥＡＤＳ研修生への農業機械実践操作講習
　　新農業委員をご紹介します
P６　加入しています 農業者年金

令和7年1月／鶴岡市農業委員会

年頭のごあいさつ

鶴岡市農業委員会
会長　石塚　治己

新年あけましておめでとうございます。

本市農業委員会は平成17年の市制施行以来7期目となり、農業委員20名と農地利用最適化推進委員31名で活動しております。昨年7月からは全委員にタブレット端末を配付し、現場での農地の確認や農地の権利移動の許認可作業においてもペーパーレス化と委員相互の情報の共有化が図られ、農業委員会業務の効率化に大いに役立っております。

本年の干支は乙巳ですが、乙巳の年は「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると言われているようです。

昨年は一昨年の記録的な猛暑による農作物の不作や品質低下の影響で、夏以降は極端な米不足となり、本年産の米においても集荷競争が過熱し高値相場が長期化するとの報道があります。20年ぶりの高値ということで、生産費を賄える水準ではありますが、農家の皆様は手放しでは喜んではいないと思います。あまりの米価高騰で消費者の米離れが進まないか、度重なる気象災害や高止まりする農業物価の影響により、再生産できる所得が維持できるか、など不安は拭い去れません。

本来日本人の主食である米が足りないなどということはあってはならないことだと思います。米の生産量の決定が国から離れ、県やJA等に移って久しくなりますが、これを機に米政策も国もこれまで以上に責任ある対応が必要なのではないでしょうか。

本年もまた異常気象が心配されますが、農作物の順調な生育と農作業の安全を祈るばかりです。柔軟な思考と準備、対応で更なる成果を上げたいものです。

農業委員会では、農地利用の最適化や後継者育成などが主な業務になっていますが、地域農業の将来像である「地域計画」の策定期限が本年3月末までとなっています。持続可能な農業・農村を創るため、農業委員会も農業者の皆様のご意見ご指導を賜りながら、本市の農業振興に取り組んでまいりたいと存じます。

皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

表紙の紹介

高齢化の進む農村地域に大きくあたたかな光！

櫛引地域　西荒屋　重松果歩さん

大学で経営や経済について学び、両親が営んでいる「農業」にも興味を持ち、親元就農した果歩さん。実家の「重ちゃん農園」では柿やぶどうを中心とした多品目の果物を育て、自宅敷地内の直売所や産直んめ農マルシェ、産直あぐりで販売しています。自分が育てた果物を販売していく中で、若い世代が「重ちゃん農園」の名前を見てリピーターとなってくれることを実感し、日々喜びを感じています。

現在は農作業のかたわら、食と農のビジネス塾や農林大学校、農業技術普及課の講座に積極的に参加し、知識や技術を高めています。

将来はSNSの稼働率の上昇とECサイトを活用した販路拡大、地域内外の方へ向けた農作業体験やオーナー制度の導入、農福連携の取組みなど、具体的な事業計画を考えながら法人化を目指しています。

担い手不足や高齢化が進む地域の中で、「櫛引の果物と景観を守っていきたい」と明るい笑顔で話してくれました。

（野村恵農業委員）

第4回　鶴岡市農業委員会
総会・全員協議会を開催しました

10月25日出羽庄内国際村において第4回農業委員会総会が行われました。4つの要望について議題が上程され、全て賛成多数により可決されました。

総会後に行われた全員協議会では、（一社）山形県農業会議の五十嵐事務局長をお迎えし、「食料・農業・農村基本計画の策定等農業委員会組織を巡る情勢」と題してご講演をいただきました。

平成11年に創設された「食料・農業・農村基本法」の改正のポイントに加え、現在各地で進められている地域計画の意義等について、わかりやすく説明していただき、理解を深めることができました。

（田澤幸弘農業委員）

総会で決議された要望

- 地域農業を支える担い手を確保するための支援を求める要望書【市・国・県へ】
- 国等の支援メニューの拡充を求める要望書【市へ】
- 遊休農地発生防止のための簡易条件整備にかかる補助事業の創設を求める要望書【市へ】
- イノシシによる農業被害を防ぐ取組みに対する支援を求める要望書【市へ】

皆川市長へ建議・要望書を提出しました

本市農業委員会では、農業者の声を行政の施策に反映してもらうため、国や県、市等の関係機関へ現場の声を伝える要望活動を行っています。

今回は、高齢化に伴う担い手の減少や、遊休農地の発生、有害鳥獣による被害の拡大など、地域農業が抱える課題を解決するための要望を取りまとめ、第4回定例総会で決議されました。

11月8日に農業委員会の四役が皆川治市長を訪問し、4件の要望書を市長に提出しました。地域農業の現状と課題、それを踏まえた要望の説明を行い、鶴岡市の農政等に関して、幅広く意見交換を行いました。

北海道・東北ブロック女性農業委員農地利用最適化推進委員研修会に参加しました

令和６年度北海道・東北ブロック女性農業委員・農地利用最適化推進委員研修会が９月３日に山形テルサで開催されました。「地域農業の未来のためにできること」を表題に、県内で活躍されている方々から、ご講演及び事例発表をしていただき、県内外から約２４０名の参加者を迎えました。

米沢市の里山ソムリエ　黒田三佳氏の講演では、「幸せな未来を農でデザインしよう」と題し、『デザインするとは「ときめき」と「ひらめき」を自分事として行動する』とお話いただきました。

本市の松本典子氏（農業委員）は、「シカクい世界をまんまるく？目指すは農業界の翻訳者？」という題目で、自身の活動の中で感じた、農家の生み出す価値について思いを伝えました。

そのほか尾花沢市の井向隆文氏（農地最適化推進委員）、河北町の生稲洋平氏のお話を聞いたのち、講師の黒田氏を交え意見交換、質疑応答を行いました。

講演・発表された方はいずれも県外出身で、山形の土地・風景・農産物の魅力に触れ、山形に移住して各地域で活躍されており、みなさんのお話はこれからの地域農業の進むべき道を示しているような大変有意義なものでした。

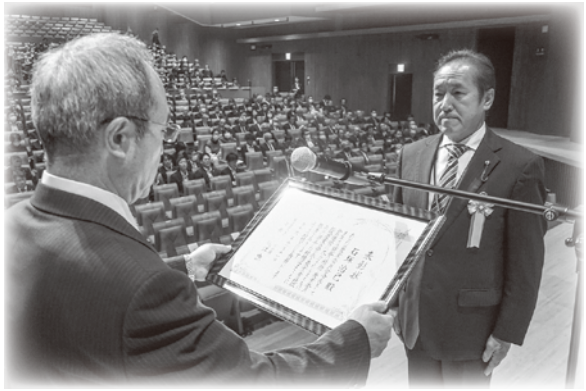
（工藤久子農業委員）

講演を行った松本典子農業委員

祝　山形県農業委員会大会に委員32名が出席 石塚会長が農業会議会長表彰を受けました

11月11日、やまぎん県民ホール（山形県総合文化美術館）を会場に、令和６年度山形県農業委員会大会が行われました。

開会行事では、主催者挨拶に続き表彰が行われ、当委員会会長の石塚治己氏が農業会議会長表彰を受けました。石塚会長におかれましては、平成24年より農業委員に就任し、令和５年11月からは会長を務めておられます。



山形県知事を始めとする、８名の来賓祝辞を頂戴した後、東京大学大学院農学生命科学研究所教授の安藤光義氏より「農業委員会系統組織が歩んだ70年と今後の展望」と題した農業委員会の歴史についてご講演をいただき、知見を深めることができました。

また、朝日町農業委員会からは「朝日町農業委員会の取り組みについて」と題し、遊休農地再生事業や地域計画の目標地図策定に際し、ワークショップを開催していることについて活動事例発表があり、時折ユーモアを交えた最後まで飽きない楽しい報告でありました。　（原田政幸農業委員）

SEADS研修生を対象に農業機械（実践操作）の講習を行いました!!

10月31日に西郷地区の水田圃場において、SEADS研修生15名を対象とした水稲及び大豆収穫後の秋耕作業におけるトラクターの操作講習を行いました。

（株）南東北クボタ様、農事組合法人しもがわの本間誠さん、農業委員2名が講師となり、トラクターの操作方法、アタッチメントの着脱方法などについて説明を行った後、研修生がトラクターの実地運転を行いました。

研修生からは、基本的な技術や操作の手順、また、安全・確実な農作業のコツをつかむために意欲的な質問が相次ぎ、我々もしっかりとした指導を行い、和気あいあいとした講習となりました。

今後もこの様な講習を通して、農業委員会はもとより、地区全体で将来の担い手の応援をしていきたいと考えています。

（小林節径推進委員）

令和7年度より

農地の貸借・売買の仕組みが変わります

農地中間管理機構（やまがた農業支援センター）を経由した「農用地利用集積等促進計画」による手法（農地中間管理事業等）または、農地法3条に基づき農業委員会の許可を受ける手法のいずれかで、利用権の設定及び所有権の移転を行うこととなります。

なお、すでに設定された利用権は、契約期間満了日まで有効です。

令和7年3月31日まで		令和7年4月1日以降
❶農地法第3条	継続	❶農地法第3条
❷農業経営基盤強化促進法	一本化	❸農地中間管理事業
❸農地中間管理事業		

※地域計画に基づく利用権設定等を一本化

おしらせ

新農業委員をご紹介します

農業委員（西部農地部会）

鈴木（すずき）　敏徳（としのり）

（鶴岡／中京田）

佐藤治久委員（鶴岡／下小中）の辞任にともない、農業委員の公募を行った結果、市議会9月定例会での承認を得て鈴木敏徳委員（鶴岡／中京田）が任命されました。

任期は令和8年11月25日までとなります。

加入しています

農業者年金

鶴岡　西郷

佐藤　千佳さん（44歳）
佐藤　　仁さん（49歳）

子育てを経て農業の道へ

砂丘地の広がる西郷地区で、メロンを中心に園芸作物を育てている佐藤千佳さん。元々は市内の企業に勤めていましたが、お子さんの妊娠を期に退職。10年ほどは子育ての傍らで両親の農業を手伝っていましたが、末のお子さんが小学校に上がったタイミングに夫と2人で就農しました。

現在はハウス栽培のメロンが70ａ、露地が60ａ。加えてミニトマトを30ａと、ほうれん草を40ａ栽培しています。「作付面積は聞かれると思ったので」と前もって用意していた可愛らしいメモを手渡してくださる千佳さんからは細やかな性格が窺えます。

おいしそうなミニトマトが実りました！

母の勧めで農業者年金に加入

農業者年金についてはお母様から聞き、農協に問い合わせて詳細を知ったそう。老後のゆとりにと7年前に夫の仁さんと揃って加入しました。保険料が家族の分も全額社会保険料控除の対象になる点と、自分が掛けた分は全額戻ってくるため、積み立て感覚でできる点が魅力だと語ってくれました。また女性なら、保険料の国庫補助を受けられる政策支援での加入も良い選択肢となります。

規模拡大で目指す「継げる農業」

全17棟あるビニールハウスのうちの2棟は、千佳さんご夫婦が就農した後に増設したそう。「もし将来、子どもから農業をやるって言われた時に『いいよ』って言えるようにしておきたいんです」とはにかむ千佳さん。先に先に、と準備する彼女の性格は、ここにも現れているようです。きびきびと働く千佳さんの隣に若い農業者が並んでいる――、そんな未来が瞼の中に浮かびました。

（松本典子農業委員）

笑顔が素敵なお二人

あとがき

昨年は地震や自然災害で大変な年だった。高温で野菜が高騰し他の食品も値上げラッシュで家計が悲鳴を上げている。

また、米騒動で県内でも一時店から米が消えた。農家は米の値段がアップして喜んでいるが、今年も高価格で推移するよう期待している。

（齋藤万里子推進委員）

女性農業者のみなさんへ

農業者年金に加入しませんか？

1 「終身年金」で長い老後生活をサポート

2 加入・脱退は任意

3 税制面で大きな優遇措置○

※加入には一定の要件を満たす必要があります。
※詳細はお近くの JA 各支所、または農業委員会・各分室まで!!

鶴岡市農業委員会事務局
〒999-7696 山形県鶴岡市藤島字笹花25（鶴岡市藤島庁舎内）　☎64-5868（直）　FAX.64-5846
○鶴岡分室 35-1297　○羽黒分室 62-2527　○櫛引分室 57-2114　○朝日分室 53-2117　○温海分室 43-4616
http://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/nougyouiinaki/index.html

発行/年３回（1・4・9月）
バックナンバーはこちらから